令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C01

「アナウンサーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　渡辺　祥子 先生
〔所属〕　フリーアナウンサー・朗読家

■ 参加人数　17　人　　講座担当者　星　博子

フリーアナウンサー・朗読家、雑誌の編集長など、多方面でご活躍されている渡辺祥子先生から、仕事の内容や魅力、言葉の持つ力について教えていただきました。また、ステージとマイクを使ったキャスターやレポーターの体験を通して、伝えることの楽しさを味わいながら、アナウンサーの仕事について学びました。

1.　アナウンサーの仕事について



アナウンサーの仕事は、声の言葉で情報を伝えるだけではなく、「言葉を通して情報と人、人と人をつなぐ」「言葉で、人に勇気や希望を届ける」ことができる仕事であることを教えていただきました。こどもたちは、先生による『百羽のツル』の朗読を聞き、映像がなくても頭の中に物語の情景が広がる感覚を体験。場面や気持ちを豊かに伝えることができる「言葉の持つ力」について、身を持って実感していました。

2.　アナウンサー体験



呼吸法や表情筋のトレーニング、イントネーションやアクセントなど正しい発声について学んだ後、キャスター・レポーター・気象予報士になりきって、ニュースの原稿読みに挑戦です。先生から、受講生一人ひとりにアドバイスをいただいたことで、こどもたちはめきめきと上達していきました。本番では、「聞いている人とキャッチボールをする感覚」を意識しながら、緊張しつつも、声に気持ちをのせて、目の前の相手へ言葉を届けようと一生懸命取り組んでいました。

3.　言葉を大切にするということ



言葉には、生きる力を引き出す力があります。こどもたちの「緊張しない方法は？」という質問に、「準備をすること、笑顔をつくること、緊張するといい仕事ができることもある。」と教えていただきました。しかし、「言葉は諸刃の剣でもあり、良きものとして使うことが大切である」と教えていただきました。「言葉を大切にすることは、周りの人を大切にすること、そして自分を大切にするということ」という先生の言葉を、こどもたちはうなずきながら聞いていました。

4.　まとめ

言葉の力に加え、先生から夢を持つことの大切さも教わりました。夢は自分の背中を押してくれるものであり、今の自分を輝かせてくれるもの。「夢中」とは、夢の中にいるということ。自分が大切だと思うことに夢中になって取り組むことが大切であることを教えていただきました。最後に、「自分のやることに集中し、一日一日、その瞬間瞬間を大切に夢中になるような生き方をしてほしい。」とメッセージをいただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 言葉は、受ける人によってもうれしい言葉や悲しい言葉になるというのが心に残りました。　（連坊小路小　5年生）

○ 言葉は相手を元気にすることができます。私は相手を元気にうれしくできる良い使い方をしたいです。（福室小　6年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C02、D02

「医師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**島村 弘宗　先生**
〔所属〕　**仙台医療センター**

■ 参加人数　　午前38人、午後26人　　講座担当者　熊谷 裕也

仙台医療センターで勤務されている島村弘宗先生を講師としてお迎えし、医師の仕事について詳しくお話を聞きました。後半は、医師を目指し始めてから医師になるまでの、島村先生ご自身の経緯をお話しいただき、また、縫合の体験活動等を行い、外科医の仕事の実際に触れることができました。

1.　医師の仕事についてのお話



島村先生より、スライドと映像を交えながら医師の仕事について詳しくお話しいただきました。医師の仕事はドラマで格好良く取り上げられますが、その実はとても大変で、豊富な専門知識と経験、学び続けることが求められる仕事だということを教えていただきました。時にうまくいかないこともあって、悲しい気持ちになることもあるそうです。それでもこの仕事を続けられるのは、患者さんの病気が治ったり、快方に向かったりしたときの感謝の言葉や笑顔があるからだとおっしゃっていたのが印象的でした。

2.　医師を志すきっかけ



島村先生は、中学2年生の時に「シュヴァイツァー」というアルザス（当時はドイツ領・現フランス領）人医師の伝記を読む機会があり、その本に大変感銘を受けたそうです。シュヴァイツァーは、20代はパイプオルガン演奏者・哲学家として活動していたものの、30歳からは「世のために尽くす」とし、医師を目指し始めたという異色の経歴の持ち主でした。島村先生は、彼の理念や熱意に感化され、彼の様な医師になりたいと一念発起し、勉強を頑張り始めたとのことでした。

3.　外科の縫合体験



島村先生には縫合の練習をするための道具をご持参いただいており、講座終盤に数名の受講生が縫合の体験をすることができました。慣れない形と使い方のハサミとピンセットを操り、丸まった形の針をコントロールしながら縫合をするので、受講生は大苦戦……。それでも皆、島村先生からの助言のお陰でなんとかうまくできました。楽学プロジェクトだからこその、貴重な体験になったようです。

4.　まとめ

医師の仕事は、テレビで観るような目立つ部分だけではありません。一口に医師と言っても、病理検査を行ったり、研究をしたりと、様々な働き方の医師がいて、それぞれが協力し合って病気と闘っています。そうした協力や患者とのコミュニケーションが大切になるので、相手の気持ちを考えた「ことば」を大切に、世界にも目を向けながら目の前の勉強や部活動、習い事などを一生懸命頑張ってほしいと思います。（講師の島村先生から）

5.　児童生徒の感想紹介

○ 色々な医師がいることが知れたので、もう一度医師について考えてみようと思いました。　（附属小　5年生）

○ 医師として毎日働いていらっしゃる方から聞くお話は貴重なものばかりで、とても勉強になりました。（台原中　2年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 C03

「プロスポーツ選手の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　菊地 柊汰 先生、美濃山 正章 先生
〔所属〕　一般社団法人 89ERSアカデミー

■ 参加人数　31 人　　講座担当者 永島 功三

「プロスポーツ選手の仕事」では、一般社団法人89ERSアカデミーでバスケットボールの指導をしている菊地柊汰先生と、美濃山正章先生をお迎えし、スライドを使った講話や、グループでの意見交換を通して、「習慣化することの大切さ」「好きなことを仕事にすることの難しさ」について教えていただきました。

1. 仙台89ERSと菊地先生のお仕事



冒頭では、仙台89ERSや現在のBリーグ、そして2026年秋に開幕する「B.LEAGUE PREMIER（Bプレミア）」などについてお話しいただきました。また、菊地先生の一日の仕事スケジュールを紹介しながら、「自分の仕事量から逆算し、毎日考えながら業務を進めている」とお話しされました。現在、菊地先生はこどもたちにバスケットボールを指導するコーチを務められています。「コーチと先生の違い」について解説された際には、「コーチとは、人を夢まで送り届ける役割である」と語られていました。

2. 「習慣化」とは？



菊地先生は、小学4年生でバスケットボールを始め、最初はシュートの楽しさを感じられたそうです。バスケットボールの名門、秋田県の能代工業高校で研鑽を重ねた菊地先生は、その後も活躍を続けられました。菊地先生は「バスケットボールは『ハビット（習慣）』のスポーツ」とおっしゃられました。1日で全てを完璧にしようとするのではなく、やるべきことを習慣化して、コツコツ積み上げることが大切だということです。菊地先生から「何かを好きになることは、無限の可能性を生む」と、こどもたちにメッセージを贈られました。

3. グループでの話合い ～習慣化について～



こどもたちは、「習慣化シート～夢を叶えるための習慣作り～」というワークシートを使い、グループで話し合いをしました。現在の夢や目標、それを叶えるために現在取り組んでいること、そして「今日から習慣化できること」について話合い、発表しました。様々な意見が発表されましたが、主に「生活習慣を整えること」が共通して出されました。また、「挨拶や感謝を習慣にしたい」という声も挙がり、菊地先生も「心と身体を整えることはとても大切」とおっしゃっていました。

4. まとめ

まとめとして、菊地先生より「好きなことを仕事にするのは、とても難しい」というお話がありました。菊地先生ご自身も、大好きなバスケットボールを仕事にすることができている現在の環境や、周囲の人々への感謝を常に忘れないようにしているそうです。また、指導者として、学習者との距離感について試行錯誤し、日々改善を目指しているということでした。最後に参加したこどもたちへ、「物事を好きになる気持ちを大切にしてほしい」というメッセージを贈られました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 自分の好きな仕事になるための近道はないということを知ることができました。　（吉成小 5年生）

○ プロスポーツ選手になるためには、日々の習慣を積み重ね、継続することが大切だと分かりました。　（向陽台中 1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C04･D04

「イラストレーターの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　山本　重也 先生
　　〔所属〕　山本　重也イラストレーション

■ 参加人数　午前18 人､午後18 人　　講座担当者 内海　智

「イラストレーターの仕事」では、現在気仙沼を拠点に活躍する山本先生を講師としてお迎えしました。前半はイラストレーターの仕事について詳しくお話を聞き、後半は、果物をモチーフにキャラクターのイラストを描く活動を行いました。先生から仕上げのコツを教えてもらうなどして、短い時間でしたが、集中して創作活動に取り組み、イラストレーターの仕事の楽しさ、厳しさに触れていました。

1.　イラストレーターの仕事についての話



こどもの頃、漫画家になりたいと思っていた先生は、20歳までには自分のやりたいことを見つけようと考え、実家の工場で働いていました。やはり絵を描くことを仕事にしたいと思い、専門学校で勉強することにしました。一年後、知人のつてを頼りにプロに弟子入りをし、一日も休まず熱心に先輩たちの様子を見て勉強しました。アシスタントとして仕事をもらえるようになりましたが、プロとして活躍するまでにはとても苦労したそうです。プロの世界で勝ち抜いていくためには、粘り強く取り組むこと、絵に真摯に向き合うことが大切だということを話していました。

2.　果物をモチーフにしたイラスト作り



講話の後半には、これまでに先生が創作し、商品化された作品などを見せていただきました。先生が得意にしているのは、物語の表紙や挿絵を描くことで、文章を読んでキャラクターを想像して描くという仕事です。そこで、講座の中盤には果物を見て、イラストを描くという演習を行いました。前半は、イメージを形にする時間にし、後半はイラストを仕上げる時間にして、受講生が集中して作品作りに取り組みました。最後に、皆で見合う時間を取り、先生から受講生一人ひとりのイラストを評価していただきました。お互いのイラストの良さを知ることができ、これからの作品作りの大きな刺激になる演習になりました。

3.　質疑応答



Q　どうしたら、上手に描くことができますか。
A　とにかくたくさん描くこと。そして、真似をしてもいいから、対象をよく見て描くことが大切です。
Q　イラストレーターの仕事は楽しいですか。
A　仕事となるとたくさんこなさないといけない。以前は、締切に追われることもあったが、絵を描くことが好きだから、イラストレーターの仕事は、楽しいです。

4.　まとめ

山本先生から「イラストレーターの仕事は、しんどいこともたくさんあります。依頼主の注文にうまく応えられず、厳しいことを言われたこともあります。でも、厳しいことを言う方こそ、次にまた仕事を依頼してくれることもありました。イラストに真摯に向き合い、うまくいかなくても経験を積み重ねていくことが大切なので、色々なことに挑戦する気持ちを大切にして、絵を描いてほしいです。受講生の皆さんも今日の講座で集中して作品作りに取り組んでいました。これからも、楽しんでイラストを描いてほしいです。」というメッセージをいただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 絵が下手でも、何回も描くことで、上手になるのだと知りました。私も粘り強い人間になりたいです。（西多賀小6年生）

○ イラストはやっぱりたくさん描くことと集中力が大切だということが分かった。　（将監中　2年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C05

「栄養士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　星 由美子 先生
　　〔所属〕　仙台青葉学院短期大学

■ 参加人数　17 人　　講座担当者　渡辺 聡

「栄養士の仕事」では、仙台青葉学院短期大学で勤務されている星由美子先生と学生の皆さんを講師としてお迎えし、栄養士になるために奮闘する主人公を描いたドラマを交えながら、栄養士になるまでの仕事やその具体的な仕事内容について詳しくお話を聞きました。

1. 栄養士として働く場所について



星先生より、スライドの映像を使って、栄養士を志す主人公を描いたドラマをとおして、具体的に栄養士や管理栄養士についてお話いただきました。仕事は①食事を作る場所②食事を作らない場所に分けられます。①は特に学校や保育所、自衛隊で、②は特に保健所や食品会社、スポーツ選手のサポートなどです。いずれにしても人の一生に関わっているお仕事であるとお話されていました。

2. 栄養士の仕事について



栄養士の仕事は、短期大学や大学を卒業後に国家試験に合格して就くことができる仕事です。人がいつまでも健康でいられるために、何を、いつ、どれくらい、どのように食べるかを考えます。日本人は比較的塩分を取り過ぎている傾向があるので、塩分摂取の調整の仕方や、健康を維持するために野菜や果物を食べることなどのアドバイスも行っているそうです。その場所にいる人に合わせて、量、切り方、バラエティに富んだ工夫が必要とされる仕事です。

3. 講師の方が栄養士を目指した理由とは･･･



今回講師としていらっしゃった学生の皆さんに上記の質問をしてみたところ、以下の内容で答えていただきました。
①食事で人を笑顔にしたいから。
②家族の健康を支えたいから。
③小さい時から食べるのが好きだったから。
④母が栄養士で、自分自身も給食が好きだから。
食に関心を持ち、常に健康を願う思いが伝わりました。

4. まとめ

日頃食べているものには思っている以上に塩分が含まれていることを、具体的な食べ物で紹介していただき、こどもたちは驚いていました。栄養士や管理栄養士の方たちの適切なアドバイスによって自分では気付けない部分を理解し、健康維持につなげることができることを教えていただきました。そして、参加者にとって身近な学校給食の栄養バランスを考えるのも栄養士の仕事であり、健康な食生活ができるのも栄養士の方のおかげだとわかりました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 栄養士の大変さや私たちの身近にいる方達なのだと知った。（荒井小 6年生）

○ 学校や病院での食事の献立だけではなく、商品開発やスポーツ選手など様々な場所で支えとなる仕事だと知った。（郡山中 1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C06

「ゲームクリエイターの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　伊藤　拓未　先生
　　〔所属〕　仙台デザイン＆テクノロジー専門学校

■ 参加人数　34　人　　講座担当者　勝又　真吾

「ゲームクリエイターの仕事」では、合同会社ハラノコの代表を務める伊藤拓未先生を講師にお迎えし、ゲーム制作の現場や業界について詳しくお話を伺いました。活動では、ゲームの構成を考えるゲームデザイナー体験や、パソコンを使用したプログラミングに挑戦しました。受講者は、ゲームが形になるまでの過程を学びながら、制作の魅力ややりがいに触れる貴重な機会となりました。

1.　講師が語る「ゲームクリエイターへの道」



ゲームクリエイターというと、イメージが強いのは「プログラマー」ですが、それ以外にも「デザイナー」「プランナー」など多岐な役割があるのでPCの操作だけでなくいろいろな知識が生かせるそうです。今、学校で学んでいることを生かし、小中学生のうちから挑戦できることもたくさんあるそうです。また、ゲーム制作の過程でバグ（不具合）やトラブルなどの発生をできるだけ抑えるため、「きちんと確認する」ことも大切だそうです。受講者は、ゲームクリエイターという職業への理解を深めるとともに、夢の実現に向けて今からできることについて学ぶことができました。

2.　Unityを使用して実際にゲームづくりを体験



音楽ゲームなどで見られる「ノーツ」と呼ばれるマーカーが画面上を流れるプログラムをもとに、実際のゲーム制作に挑戦しました。受講者は、プログラム内の文字情報を確認しながらバグの原因を見つけて修正したり、ゲームの動作や演出を改良したりしながら、ゲームが完成するまでの工程を体験しました。また、変更した内容がどのように動作へ反映されるのかを確かめながら、プログラミングの仕組みについて理解を深めました。実際にパソコンを操作して試行錯誤を重ね、自分なりの工夫やアイデアを取り入れたオリジナルのゲームづくりに取り組みました。

3.　発想力を生かしたゲームづくり



ゲームデザイナー体験では、サイコロの出た目に応じた行動や効果を考えながら、ゲームのルールづくりに挑戦しました。受講者は、攻撃や回復のほか、受講者全員に影響する効果などさまざまなアイデアを取り入れ、ゲームがより面白くなるよう工夫しました。また、キャラクターの強さやルールのバランスにも配慮しながら設計を行い、ゲームデザイナーの役割を体験しました。自ら考えたアイデアを用紙にまとめながら、ゲームづくりに必要な発想力や企画力を学ぶ機会となりました。

4.　まとめ

今回の講座では、ゲームクリエイターの仕事内容や制作の流れについて学ぶとともに、プログラミングやゲームデザインの体験を通してゲームづくりへの理解を深めることができました。今、学んでいる学習内容や人とのコミュニケーションもゲームを作り上げるためには大切な要素になることが分かりました。プログラムを考える上で正確さが求められるので、何事にもよく確かめて正確に取り組む習慣が必要になることなどにも気付きました。ゲーム制作を通して、日々の生活を積み上げていく大切さを教えていただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ ゲームを作る面白さを知り、ゲームクリエイターになりたいという夢がさらにふくらんだ。　（枡江小　5年生）

○ 実際にゲームを制作している方から、ゲームの仕組みや制作の裏側について話を聞くことができてよかった。　（秀光中　3年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C07

「ウエディングプランナーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**佐藤　加奈　先生（パレスへいあん）**
〔運営ﾒﾝﾊﾞｰ〕 **ホテルメトロポリタン仙台、FIVESTAR　WEDDING**
仙台ウエディング＆ブライダル専門学校

■ 参加人数　20　人　　講座担当者　針生　真由美

「ウエディングプランナーの仕事」では、パレスへいあんで勤務されている佐藤　加奈先生を講師としてお迎えしました。前半は仕事の内容について詳しくお話を聞き、後半は模擬結婚式の体験活動等を行いました。将来に向けた選択肢が広がった講座となりました。

1.　フラワードレスの作製体験



佐藤先生より、スライドの映像を使って、ウエディングプランナーの仕事について詳しくお話しいただきました。最初に、受講生全員で、フラワードレスの作製を体験し、フラワーの置き方ひとつでも、見え方が違うことを学びました。また、専門学校の資格の中では、ウエディングプランナーの他にも、多岐にわたる資格が取得できることも知り、幅の広い職種であることも教えていただきました。

2.　結婚式の目的



結婚式には、3つの目的があることを学びました。1つ目「ふたりが永遠の愛を誓う日」、2つ目「新たな人生がスタートするけじめの日」、3つ目「今までお世話になった人に感謝を伝える日」。その様な大切な一日の演出に関わるお仕事なので、打ち合わせの時には、今までの人生感や趣味、家族関係等新郎新婦とのコミュニケーションを一番大切にしていることを学び、受講生は、真剣にお話をメモに残していました。人を幸せにしながら、演出一つで結婚式を成功に導かせられるウエディングプランナーのお仕事に誇りを持たれているという実感が持てるお話をいただきました。

3.　模擬結婚式の体験



模擬結婚式体験では、スタッフと参列者に役割を分担し、新郎新婦の入場から始まり、リングリレー、指輪交換のサポート係の仕事などを行い、退場までの流れを体験しました。新郎新婦の綺麗さにみな驚きと感動をもらいながら、実際にウエディングプランナーになりきった活動を行い、とても楽しく結婚式体験ができました。入場の音楽だけでも演出を変えられることも同時に学びました。

4.　まとめ

ウエディングプランナーの仕事だけではなく、関連するヘアメイク＆ドレスの資格があることや、専門学校で多くの資格が取得できることもわかり、将来の選択肢が増えた講座でもありました。ウエディングプランナーの仕事は人を幸せにしながら大切な一日のお手伝いに関われる、素敵なお仕事であることも伝えていただきました。最後に様々な場面でのプロ意識を持ったプランナーとしての関わり方なども伝えていただき、将来の夢につながる講話でした。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 学校の図書館の本にあり、興味を持っていましたが難しそうだなと思っていました。難しいけど、楽しい仕事なのだと思い、将来はこの仕事についてみようと考えました。（川前小　6年）

○ 小学生から目指していた仕事について、自分で調べたこと以外にも詳しく知ることができて良かった。沢山の種類があるなかで、ヘアメイク＆ドレスかプランナーを目指したいと思いました。高校を卒業したら専門学校に行こうと思いました。（富沢中　3年）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C08･D08

「漫画家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　三浦　和音　先生
〔所属〕　デジタルアーツ仙台

■ 参加人数　午前：25人　午後：19人　　講座担当者　大場　俊宏

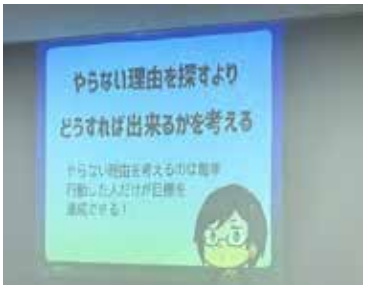
「漫画家の仕事」では、デジタルアーツ仙台の三浦和音先生を講師にお迎えしました。三浦先生は専門学校の講師をしながら連載漫画を抱える漫画家です。スライド資料をもとに、漫画家の仕事や漫画家になるまでの三浦先生の足跡を皆でたどりました。

1.　自己紹介・漫画家の仕事について



三浦先生は漫画家の仕事以外にも専門学校の講師やキャラクターデザインなど幅広くお仕事をされています。先生の1か月のスケジュールから1日のスケジュールまで教えていただき、その多忙ぶりに驚く受講生でしたが、「徹夜で作業をしても良い作品にはならない」という先生の言葉のとおり、スケジュールの中に適度な休息もあり、その必要性について教えていただきました。

2.　漫画家になるまで・実習



漫画家になるまでの道のりは容易なものではなく、失敗も経験しながら、地道な努力を継続してきたからこそ今の漫画家としての自分があるとのことでした。また、専門学校に講師として勤務して絵に携わりながらも、自分の目指した姿ではないという違和感に気付き、作品制作に本腰を入れるようになったそうです。先生は節目節目で自分自身としっかり向き合い、自分なりの答えを見付けてきたという話が随所にあり、こどもたちが生き方について考えるヒントをいただきました。

3.　質疑応答から



Q.集中力を維持するにはどうすればいいですか？
A.適度な休憩を入れること。きりのいいところで終わらせない。
Q.新しいキャラクターはどうやって考えていますか？
A.本や漫画、映画をたくさん見て毎日考え、いろんなキャラクターをストックしている。

4.　三浦和音先生の講義から

・漫画家としての考えを編集に伝えるためにコミュニケーション能力が欠かせない。
・やらない理由を探すより、どうすればできるかを考えることが大事。
　→行動した人だけが目標を達成できる。
・ペン入れして仕上げた作品がボツになることもしばしばある。
　→メンタルの強さが必要。

5.　児童生徒の感想紹介

○プロの話を聞いて、より具体的に漫画家の夢の道のりが見えてきたかなと思います。絵も勉強も最後までやり切ることを意識してがんばりたいと思います。（鶴谷東小5年生）

○漫画家さんの仕事内容や画材等、どんな仕事をしているのかがよく分かった。意外としゃべったり、楽しいことから大変なことまでたくさんあったけど、一番は絵を描くのが好きという気持ちが大切なのかなと思った。（松陵中1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C09

「バス運転士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　佐藤　隆吾　先生、櫻井　栄一郎　先生、小泉　洋介　先生
岸　隼人　先生、釘宮　まどか　先生、菊池　にちか　先生
〔所属〕　仙台市交通局

■ 参加人数　13　人　　講座担当者　加藤　徳明

「バス運転士の仕事」では、仙台市交通局で勤務されている6名の方々を講師としてお迎えし、バス運転士の仕事について詳しくお話を聞きました。前半は、クイズ形式でバス運転士の仕事について学びました。後半は、バスのドライブレコーダー映像を使ったアナウンス体験を6人の代表生徒が行い、バス運転士の仕事に直に触れることができました。

1.　バス運転士の仕事について



スライドを使用したクイズ形式の講話を通して、バス運転士の仕事内容について楽しく学びました。乗務前に車両点検をすること、お客様の安全を第一に考えて仕事をしていること、バス運転士は多くのお客様と接する接客業でもあることなど、具体的な数字やエピソードを交えながら教えていただきました。

また、3名のバス運転士の方々から、この仕事を選んだ理由や実際の体験についてそれぞれの考え方や経験をお話ししていただきました。バス運転士という仕事への理解がより深まると同時に、お一人お一人の価値観に触れることができる貴重な機会となりました。

2.　バス運転士の体験（アナウンス体験）



車内アナウンスの体験では、6人の代表生徒が、バスのドライブレコーダー映像を使ったアナウンス体験を行いました。本物のハンドルを握って、実際に使用している車内マイクを装着し、運行中のバス車内から見える映像にあわせて運転士が行う乗務中のアナウンスを体験させていただきました。前方だけではなく、後方左右の周囲の様子や、車内のお客様の動きを確認するなど運転士の方の大変さを実感することができました。アナウンスを行ったこどもたちはもちろんのこと、見学のこどもたちもとても楽しく体験することができました。

3.　バス運転士の体験②（実物体験）



現物展示コーナーでは、バス運転士が仕事で使う道具や資料を見ることができました。実際にバスに付いているスピードメーターや降車ボタン、運転士が乗務時に使用するスケジュール表、制服などに直接手で触れながら、講師の方から説明を聞きました。それぞれの道具の役割や仕事内容を知ることができ、運転士の仕事をより身近に感じると共に、バス運転士の仕事への理解が深まりました。

4.　まとめ

バス運転士は、お客様の安全を第一に考え、目的地まで安全に時間どおり運行する大切な仕事で、強い責任感と誠実さが求められる仕事であることを学びました。また、安全に運転するだけでなく、お客様が安心して気持ちよく利用できるように、声掛けやアナウンスなどの接客も大切な役割であることを知りました。今回の職業体験を通して、日々の生活の中でも責任感や誠実さ、思いやりの心を持つことが大切であることをより深く理解することができました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ バス運転士のことがわかり興味をもつことができました。大変な仕事だと思いました。　（上杉山通小　6年生）

○ 仙台市交通局では、利用客増加ための取り組みや時間を守るための行動なども学ぶことができました。（高砂中　2年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C10

「本屋の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**藤原　直　先生、桜井　和明　先生、志村　隆行　先生**
〔所属〕　**株式会社金港堂**

■ 参加人数　17　人　　講座担当者　藤井　雅美

「本屋の仕事」では、株式会社金港堂代表取締役社長　藤原直先生、支店統括部長　桜井和明先生、泉パークタウン店店長志村隆行先生を講師としてお迎えしました。前半は本屋の仕事について詳しくお話を聞きました。後半は、各自持ってきたおすすめの一冊のPOPづくりを体験し、本屋の仕事の裏側に直に触れることができました。

1.　本屋についてのお話



藤原先生より、本や出版についてお話いただきました。本には書籍と雑誌の2つの分類があり、さらに約2,300種類にも分けられていることに驚きました。昨年1年間だけでも約6,400点もの新刊が出版されており、日々多くの本が生み出されています。一方で、全国の書店数は30年前の約24,000店から令和8年3月には9,993店まで減少しており、本を取り巻く環境が大きく変化していることも知りました。本や出版業界について理解を深めました。

2.　本屋の仕事の実際についてのお話



桜井先生と志村先生より、本屋の一日の仕事や、本が出版社から書店に届くまでの流れについてお話いただきました。年間に多くの本が発行され、配本や返品の仕組みによって本が流通していることや、どこの書店でも同じ価格で販売される再販制度について知りました。さらに、面陳・棚差し・平積みやゴールデンゾーンを活用した本の並べ方の工夫やPOPの役割や描き方を学び、本の魅力を分かりやすく伝える方法について考えました。販売だけではない本屋の様々な仕事について理解を深める機会となりました。

3.　POPづくりの体験について



おすすめの本を紹介するPOP作りに取り組みました。本を読んで共感した場面を紹介文に取り入れたり、絵を使って分かりやすく伝えたりするなど、それぞれ工夫を凝らしながら作成しました。完成後は参加者同士でPOPを見合い、「面白そう」「読んでみたい」と感じる本を見付けることができました。絵や文章をしっかり考えて自分らしいPOPを完成させるとともに、本屋の仕事や本を紹介することの面白さを感じる機会となりました。

4.　まとめ

「全ての本を読むことはできないかもしれないけれども、本を読むだけで世の中が変わる」というメッセージをいただき、本には新しい知識や考え方との出会いがあり、人の人生や社会を変える力があることを改めて感じました。金港堂は、明治43年創業の歴史ある書店で、長年にわたり地域の文化や学びを支えてきました。書店は単に本を売る場所ではなく、人と本をつなぎ、学びや文化を支える大切な存在であることを実感しました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 販売以外にも仕事があることを知りました。苦労は、頼んだ冊数分必ずしも届かないこと知り、驚きました。本屋さんの数が減っていることを知り、スマホだけでなく、本を読もうと思いました。　（西山小　6年生）

○ 本屋の仕事は、本の販売だけでなく、陳列、返品もあり、思っていた仕事よりも力仕事があるんだなと思いました。日本中どこでも本の価格が同じなので、本屋独自のPOPを作って工夫がされていました。書店の個性が光る仕事だと思いました。　（寺岡中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C11

「食品開発の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**倉田　康幸　先生、大江　由紀　先生、羽場　真由美　先生**
〔所属〕　**お茶の井ケ田株式会社**

■ 参加人数　18　人　　講座担当者　近江　麻江

「食品開発の仕事」では、お茶の井ケ田株式会社に勤務されている倉田康幸先生、大江由紀先生、羽場真由美先生を講師としてお迎えしました。前半は食品開発について大切にしていることをお話しいただきました。後半は、グループごとに強みについての話をした後、お茶について学び、お茶のブレンドの体験をしました。

1.　食品開発の考え方について



食品の開発は、自分の会社や住んでいる地域など、そこにある強みと弱みは何かを考えるところから始まると教えていただきました。その過程を秋保ヴィレッジで人気のバウムクーヘンを例に、何もないところからどこに目を付けて商品にしていくのかを具体的にお話ししていただき、こどもたちは興味津々の様子で聞いていました。お茶の井ヶ田では、お茶屋であることや地元仙台の良さを強みとした商品づくりを心がけているそうです。

2.　グループワーク～「強み」を探してみよう



まずは自分の学校の強みについて考えました。弱点と思われることも、逆転の発想をすると強みになるという先生の話を聞いて、それぞれ自分の学校や周りの環境について書き出していました。いろんな学校の特色を楽しみながら聞き合いました。次に、仙台全体に範囲を広げて題材と強みを探しました。グループごとに様々な視点で意見が出され、それぞれを共有しながら、新しいアイデアも生まれ、中には先生から「商品になるかも？」と言われるようなものも出ました。

3.　お茶が出来るまで～オリジナルティーを作ろう～



茶葉から煎茶になるまでの工程やお茶の種類についても教えていただきました。熱の加え方や発酵の具合によって味も香りも違うものになることも知りました。こどもたちでもできる商品開発という事で、数種類のお茶の葉を用意していただき、各自でブレンドして好みのお茶を仕上げる体験をしました。また、急須を使い自分でブレンドしたお茶を入れ、同じグループの人たちと飲み比べをしました。それぞれの個性が出ていて楽しい体験となりました。

4.　まとめ

「普通はいい所、強みとなる所に目が行きがちだが、弱点も裏を返せば魅力となる部分であり、ものの見方は一方的ではなく様々な角度から見ることが必要です。それをどう生かしていくか、良いものに仕上げていくかはたくさんの意見をすり合わせながら、売れるであろう商品に仕上げていきます。これは商品を開発することだけではなく、生活をしていく中でも様々なところに目を向け感じていくことが必要です。」と、先生からメッセージをいただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 商品を開発するときは地道に努力し何度も試行錯誤することが大切なんだと思った。（榴岡小　6年生）

○ いろんな学校の人の強みや弱みを聞いて楽しかった。（七郷小　6年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　C12

「警察の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**伊藤　亜希子先生、佐賀　綾香先生**
〔所属〕　**宮城県仙台東警察署**

■ 参加人数　20　人　　講座担当者　藤澤　茂和

「警察の仕事」では、宮城県仙台東警察署で勤務されている2名の先生を講師としてお迎えし、私たちの安心・安全を守る警察の仕事について講話をしていただきました。前半は普段身に付けている装備品や階級、業務内容、警察学校での生活など具体的な話をしていただきました。後半は、こどもたちが鑑識の体験をしました。

1.　警察の仕事についてのお話

伊藤先生、佐賀先生より、スライドや実際の装備品を使って、警察の仕事について詳しくお話していただきました。本物の装備品を手にして、こどもたちは「格好いい」「これを身に付けて犯人を追いかけるのは大変」などと意見を述べていました。質問コーナーでは、「白バイ隊員になるには」「身長制限はあるのか」「拳銃の使用について」などの具体的な内容のものがありました。



2.　警察官になるまで（警察学校での生活）

警察学校での生活と実習の様子をDVDを見ながら学習しました。警察学校では、短期研修と長期研修があります。そこでは、警察官になるための法律や警察実務、訓練などを行います。また、寮生活を通して、仲間と協力したり、切磋琢磨したりして人間性も磨いていきます。厳しくも温かい教官の指導は、市民の安心・安全や自分の命を守るためのものなのだと教えていただきました。



3.　鑑識の仕事（指紋の採取）

こどもたちは、実際に行われている鑑識の仕事を体験しました。自分の指紋を付けた容器に、特殊なブラシでアルミニウムの粉末を付着させ、その指紋を採取するというものでした。こどもたちは真剣に取り組んでいましたが、力加減が難しくなかなかうまく採取できない様子でした。



4.　まとめ

警察官の仕事は、ひと、まち、くらしを守る仕事です。私たちの安心・安全のために、警察官は、パトロールや交通安全活動、事件や事故の対応など様々な業務をしています。市民の安心・安全を身を挺して守る警察官になるためには日頃の体力づくりや武道、逮捕術などの訓練などが必要ですが人間性も大切です。勉強も部活動も友人との遊びも、人間性を高めるチャンスです。常に自分を高める努力をすること、いろいろな経験を積み重ねることが必要だというお話でした。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 警察の仕事は、たくさんあって大変そうだけど格好いいなと思いました。　（上杉山通小　5年生）

○ 今回の講座を受けて、将来の選択肢が一つ増えたと思いました。　（錦ケ丘中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 D01

「映像クリエイターの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 **益田 健二郎 先生**
〔所属〕 **MASS事務所**

■ 参加人数 23 人　　講座担当者 永島 功三

「映像クリエイターの仕事」では、仙台市に拠点を置き、学習支援サービスや映像制作事業を手掛けているMASS事務所の益田健二郎先生をお招きしました。講座では、各種講話やドローン・4Kカメラを実際に使用する体験活動を通して、映像クリエイターの仕事について丁寧に教えていただきました。

1. 映像クリエイターの仕事とは



まずはクライアントとの打ち合わせで、お客様がどのような映像を望んでいるのかを確認します。益田先生が実際に現場に赴き、様々な機器を用いて撮影を行い、編集やお客様のチェックを経て、ようやく納品となります。ゲームクリエイターやYouTube編集者との違いは、「実際の現場に撮影に行く」という点です。環境の変化に柔軟に対応し、お客様の要望に応えていかなければ、多くの同業者の中から依頼を得ることはできません。益田先生にしか撮れない映像を撮影するため、日々修行の毎日です。

2. 体験活動(ドローン・4Kカメラ)



講話冒頭に岩手県久慈市のPR動画を視聴しましたが、その中の航空映像にも使用されたドローンを、実際にホールの中で操作する体験活動を行いました。また、音声機器等を組み合わせた約4Kgほどの4Kカメラを実際に持ち、撮影の疑似体験をしました。益田先生からは、過去には分業していた仕事も、現在は全て一人で全て担当することもあるというお話をいただきました。また、4Kカメラを持ったこどもたちは、その重量に驚いていましたが、益田先生はそのカメラを持って8時間も撮影されるというお話を聞き、更に驚いていました。

3. 今の仕事に就くまでの経緯と現在の思い



こどもの頃からカメラが好きだった益田先生は、テレビ局での仕事を経て、映像クリエイターになりました。また、海外からの依頼にも対応するため、1年間留学して英語を身に付けたそうです。10年前はおよそ1,000万円した機材も、社会変化によって安価になりました。そのため映像クリエイターを目指す人は増えているそうですが、その中でも益田先生は自身の技術を高めるために行動し、「お客様から選んでいただけるように」修行を続けているそうです。

4. まとめ

「どのような人が映像クリエイターに向いていますか」という質問に対し、益田先生は「人とのコミュニケーションを大切にする人」とお話されました。お客様の思いや要望を把握し、映像に表すためには、相手との対話が大切です。この点もYouTube編集者等との違いです。自分の好きな作品を作れば良い訳では決してありません。現在は「好きなことを仕事にできている」そうですが、それはとても厳しいことでもあります。プロとして、お金をもらっての失敗はできません。技術と知識を高め、これからの社会変化にも対応するため、日々修行が大事であるとまとめられました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 映像クリエイターが、様々な環境の中、見方・考え方に気を付けながら仕事をしていることが分かりました。 （広瀬小 6年生）

○ 映像を一つ作るまでの大変さを知りました。撮影から編集まで、たくさんの技術が必要だと知って驚きました。（長町中 2年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　D03

「動物園飼育員の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**中村　桜　先生**
〔所属〕　**仙台市八木山動物公園フジサキの杜**

■ 参加人数　30　人　　講座担当者　小松　亮太

「動物園飼育員の仕事」では、仙台市八木山動物公園フジサキの杜で勤務されている中村桜先生を講師としてお迎えし、動物園飼育員の仕事について詳しくお話を聞きました。前半は動物クイズから学習を始め、動物園飼育員の1日の仕事ややりがいを楽しみながら学ぶことができました。後半は、鳥を運ぶ疑似体験活動を行い、動物園飼育員の仕事に直に触れることができました。

1.　飼育員の仕事の楽しいこと、大変なこと



嬉しいこと・楽しいこととして、「大好きな動物を身近に感じられる」「動物の誕生や成長を見守ることができる」「皆で物事を成し遂げた時」などをお話ししていただきました。一方で、悲しいこと・大変なこととしては、「体力勝負」「危険な仕事もある」「大好きな動物が亡くなった時」などをお話しいただきました。働くときには好きなことだけではなく、苦手なことにも責任をもって取り組むべきことを丁寧に教えていただきました。

2.　鳥に見立てたペットボトルを運ぶ体験



中村さんが動物園で飼育に携わっているインコやオウムなどの鳥に見立てたペットボトルを手に乗せて運ぶ体験をしました。受講生たちは3チームに分かれ、リレー形式で競争しました。実際に運んでみるとなかなか難しく、手から「鳥」が落ちてしまう様子もたびたび見られました。体験後は、中村先生から、「腕の位置は鳥が乗りやすい位置にあるか」「風向きは」など、鳥を持つときは様々なことを考えていることを教えていただきました。日頃の勤務で培われた動物園飼育員の「体力」「バランス感覚」「工夫」を知ることができました。

3.　動物園飼育員になるには



動物園飼育員になるには、大学の農学部や短大で、動物に関する専門的知識を幅広い分野を学んだり、専門学校で実践形式で専門技術を学んだりする道があると教えていただきました。将来動物に関わる仕事に就きたいと考える受講生は多く、真剣な眼差しで先生の話をメモする姿が印象的でした。動物園飼育員は狭き門なのだそうですが、ぜひ熱心な受講生の中から将来の飼育員が誕生してほしいと願わずにはいられません。

4.　まとめ

「働く理由」には、「やりたいことを実現する」「お金のため」「自分自身のスキルアップのため」「人や社会の役に立つため」など、人それぞれの理由があるが、「自分は何を一番大切にしたいのか」しっかり思いを持つことが大切です。中村先生は、「動物が大好きで、動物を守れる仕事に就きたい」という思いから、動物園飼育員の仕事を選んだそうです。講座の最後には、自分の好きなことの中からやりたいことを見つけると将来につなげやすいと、温かいメッセージをいただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 動物の健康を守り、知ってもらって、研究する飼育員の仕事はかっこいいと思いました。　（宮城野小　6年生）

○ 動物園には、飼育員だけでなく獣医師など多くの人が関わっていることを知り驚きました。　（上杉山中　2年生）